

2022年度 活動方針案に関するフローチャート

2021年11月理事会

期日／組織	県	県委員会	支部	備考
11月三役会 11/25	活動方針案 提出			
	↓			
12月理事会 12/2	提案			
支部役員会	↓			
12月三役会 12/23	意見集約 修正			
	↓			
1月理事会 1/7	承認			
		↷		
1/17 までに		活動方針案 提案		「県活動方針案」をもとに作成
メーリング 理事会		↓		
1/20		承認		
			↷	
1/31 までに			活動方針案 提出	「県活動方針案」と「県委員会活動方針案」をもとに作成 ※支部－活動方針案は支部役員会（メール・LINE等）で承認後提出
			↓	※支部－役員構成検討
2月理事会 2/3			確認	※支部－役員会・例会日程検討
2月支部役員会			委員会活動方針案 承認	「県委員会活動方針案」と「支部活動方針案」をもとに作成 ※支部－委員会構成検討
2月28日 締切厳守				※支部－「支部委員会」活動方針案は、支部総務委員長が 取りまとめて、事務局に提出
3月		委員会日程調整		

理事会御中

2022年1月27日
長崎県中小企業家同友会
北松浦支部長 中村 寿弥

北松浦支部の来期活動について！

北松浦支部は、数年前から例会の参加者が減少しそれに伴い会員の減少も続いています。

先輩方も会員増に色々と努力して来られましたが、（経営者絶対数の少ない地域でも有り）現状は

- ① 会員に成ってもほとんど参加しない幽霊会員 30%
- ② 年1,2回参加するが、役員活動等は難しく役員に成りたくないから、活動を積極的に出来ないと言う会員、30%
- ③ 万年役員で役員を続けている会員 30%
- ④ その他 10%

今の北松浦支部は、ほぼ③の会員の参加で、その中の支部長・（副支部長）例会委員長・前支部長等数名がここ何年か運営を行い、各種委員会活動は委員長としての活動がほぼ出来ていません！

これは、人が居ないので無理にお願いして役員名簿を埋めているからです。

では、同友会に一切興味がないのかと言えばそうでは無く今までも経営や経理などの勉強会活動は他支部に負けない参加者がいる事でも明らかです。

今のままでは、もう何年も例会や総務などの委員長を続けている会員たちも限界です、替わりたくても変わりが居ません！

そこで、来期より北松浦支部は、県の委員会活動を一旦休止（委員長無）し、各人自由に県行事・他支部例会への参加をする。（個人としての県委員会参加は推奨する）

北松浦支部独自の活動は、皆で協力して例会と仲間づくりに特化して頑張ってお参りますのでご理解いただきますようお願いいたします。

第5次ビジョン検証結果・抜粋（例会委員会）

・アンケート回答の中に、返信率100%達成は本当に難しい旨のご意見がいくつか上がっておりました。例会委員の熱心な声かけ等により、何とか90%台を達成することができる月もありますが、残りの10%の会員は、概ね固定したメンバーであり、自主的な返信には至っていません。出席依頼への返信は、基本的なマナーでもあるので、本来は、返信率100%をビジョンとして掲げるべきと考えますが、「同友会は『自主』の団体でもあり、ある程度、自主性に委ね、100%返信を求めなくてもよいのではないか」といった声を聞くこともあります。出席率については、数値目標を掲げることは必要ではありますが、会員それぞれの事情や予定もあるため、出席自体を無理強いすることはできないところが悩ましいところとなっています。

・声かけによって返信率をキープしているという実情もあるため、純粋に自主的な返信に絞ってみると、もっと返信率は低くなる可能性があります。出席率は、平均して30%台であり、良くて40%台という現状にあります。新型コロナが流行していた時期に、完全Zoomで例会を開催した際、出席率が低下したところもあります。やはり、懇親会を開催しない場合に、出席率が低下する傾向にあると考えられます。

・全体的に例会の水準が確実に上がっているという実感があります。新しい会員が増えていく中で、さらなるレベルアップを目指して、グループ長のスキル向上のための研修が引き続き必要と考えられます。なお、出島支部では、新しく会員になった方にグループ長をお願いした上で、同じ席のベテラン会員が積極的にフォローするという養成方法を採用しています。

・例会委員会の議論において、グループ発表の時間が少ないという意見も出ていました。他のグループの議論内容を知りたいという要望も少なくないため、発表の時間を確保する必要があります。他方で、その分、グループディスカッション

の時間が削られてしまうと十分な議論に支障が出るため、他グループの発表内容を共有する方法などの検討の余地があります。

・グループ発表のテーブル数が限られているような場合でも、より積極的に手を上げて発表に臨んでもらうための工夫が必要になります。活発で充実したディスカッションがなされれば、ぜひこの議論の成果を発表したいという気持ちになると考えられますし、グループ発表の促進につながると考えられます。

・アンケートの回答にも、グループ長次第で、ディスカッションの内容や雰囲気が大きく変わるという意見がありました。グループ長の個性を活かすという点は積極的に求められるべき点であるとともに、グループディスカッションの質を全体的に一定水準保つという点も重要と考えられます。

・五島支部の回答に、例会のマンネリ化という表現がありました。次年度から導入される予定の支部外役員制度が軌道に乗ることで、例会にも支部外会員が参加するようになり、例会が活性化されることが見込めると考えられます。

・例会の水準は確実に進化しています。以前より、深い議論ができるようになっていきます。魅力ある例会づくりに向けて、とても良い方向で委員会活動が進められていました。

アンケートへのご回答ありがとうございました。

第5次ビジョンの検証結果・抜粋（仲間づくり委員会）

・同じ支部内でも、例えば「この会員の名前は聞いたことがあるが、まだ一度もお会いしたことがない」という方もいらっしゃるため、「増」と「強」のうち、「強」の部分が今後の課題と考えられます。現在進められている例会委員会との活動活性2委員会の連携強化が、この課題に向けた大きな原動力になると期待されます。

・各支部内の仲間づくり委員長も、誠実に活動に取り組んでくれている方が多くいらっしゃいます。少しずつではありますが、着実に努力の成果が出ていると感じられます。

・新入会員を、いかにして、同友会の神髄でもある「経営指針」（①経営理念、②10年ビジョン、③経営方針、④経営計画）の策定へ結びつけることができるかが、「強」を推進していく上で重要な点と考えられます。人を生かす4委員会が活性化している中で、新入会員を4委員会の活動にどのようにアプローチさせるかが、今後の課題になります。その意味では、人を生かす4委員会と活動活性2委員会の連携、ひいては、例えば、「増・強」などの特定のテーマについて、全委員長・全支部長が議論をする機会（かつて開催されていた支部長会議をイメージ）があればよいと考えました。

・佐世保支部では、会員やゲストに関する情報がある程度管理して共有されています。新型コロナ対策として設けられた休会制度が、来年3月末で終了し、再度の期間延長はないと聞いていますが、約60名いる休会者をそのまま完全退会とすることはあまりにもったいないという意見が多く出ていました。

・新型コロナという逆境にはありますが、今後も、できるだけ多くの方に同友会を直接見てもらい、同友会の良さをますます広めていただきますようお願いいたします。次年度も、山口新委員長の新しい体制の下で、さらなる「増」「強」による同友会全体の活動活性が大いに期待されます。

アンケートへのご回答ありがとうございました。

第5次ビジョンの検証結果・抜粋（経営労働委員会）

・人を生かす4委員会活動が特に目を見張る活動内容であり、他の委員会にも大きな影響を与えています。「語り部への道」づくりについての議論もこれから加速化する見込みであり、ビジョン委員会としても積極的に関わらせていただきたく思います。

・県の4委員会活動が、少しずつ支部にも浸透してきていることを皆が実感しています。今後、県と支部がますます連携し、会全体の活性化につながっていくことが期待されます。

・同友会に入会する全員の目的は、「自社をより良くすること」にあります。そのためには、同友会の神髄である「経営指針」づくりは欠かせません。同友会の本当の良さを知らずに入会した会員を、いかにして、人を生かす4委員会の活動へ結びつけるかが、同友会全体の重要な課題になります。

・佐世保では、経営指針づくりセミナーに参加した会員は、365日以内に経営指針発表会をするという暗黙のルールがあります。このように、同友会に入会した会員は、当然に経営指針づくりに着手するというルートを、ごく当たり前のルートとして確立していくことができれば、同友会内における経営指針の浸透がさらに進むと考えられます。

・全国大会のグループディスカッションに参加すると、全国の会員のレベルの高さにまず驚き、自分の勉強不足、意識不足を痛感します。この全国大会での悔しい経験が、時に、経営指針づくりに向けた原動力になる場合もあります。特に新入会員に対しては、会からより充実した補助金を出すなどして、入会から日が経たない時期における全国大会への参加を促進することで、経営指針づくりに向けたモチベーションを早い段階で活性化できるのではないかと考えました。

アンケートへのご回答ありがとうございました。

第5次ビジョンの検証結果・抜粋（共育委員会）

- ・本年度も積極的に活動をされているという感想が多く出ました。

- ・合同入社式や新入社員フォローアップ研修は、繰り返し参加いただいている会員企業も多く、同友会文化として根づいてきたと高く評価されています。これらの活動により、従業員の方々は企業を超えた同期関係を構築することもできており、共育委員会が継続して築いてこられた功績は大きいという意見が多数でした。

- ・出島支部では、長崎女子短大（会員）との距離感もずい分と近くなり、支部と大学との連携が進んでいます。また、諫早支部では、鎮西学院大学（会員）との連携期間も長く、毎月、学長との産学連携委員会が開催されており（毎月第2火曜日13時～15時）、基本的には会員であれば誰でも委員会にオブザーバー参加することができるとのことでした。支部内に大学がない地域の会員であっても、諫早支部等の他支部の連携活動に参加することができる環境が整っているため、今後、支部間の連携、支部を超えた大学との連携がさらに進化することが大いに期待できます。

- ・ビジョン及び活動方針・計画のいずれについても、委員会内での検証においても、進捗・達成度70%という高い評価を出されており、正に、これまでの地道な粘り強い活動の成果の表れであると感じました。

アンケートへのご回答ありがとうございました。

第5次ビジョンの検証結果・抜粋（ダイバーシティ委員会）

・ダイバーシティ例会を活動の柱として、本年度も活発に活動を継続されてきました。寺尾委員長を中心に、委員会全体に勢いがあり、委員のモチベーションとしても、委員長を応援して委員会を盛り上げたいという意気込みが強く感じられる委員会活動をされていました。同友会活動を支える重要な活動を展開されていることに対して、高い評価が多く出されました。

・ビジョン委員の中にも、特別支援学校の生徒さんを研修として受け入れようと試みた会員もあり、「実際に自分のこととして経験したことにより、受け入れることができるケースと、障がい等についてもっと知識を得なければ、円滑な受入れが難しいケースがあることを学んだ。」という意見もありました。そこで、生徒さんの研修受入れや採用に向けて、障がいに関する知識や障がいの程度に応じた接し方、受け入れ方などについての勉強会を、今後も開催して欲しいという意見もありました。

・ダイバーシティ活動の一環として、同友会事務局でも特別支援学校の生徒さんの研修受入れを経験することができました。

・各支部が、それぞれの地域にある特別支援学校と連携をさらに深めていくことと、並行して、支部間の連携強化が進むことがさらに期待されます。

・ダイバーシティ委員会が取り扱う分野は多岐にわたり、過去には、「外国人雇用」に力点を置いた活動をされていた時期もありますが、今年度は、「女性の活躍」に力点を置いて活動されていたという印象があり、取り扱う力点にメリハリがあって、効果的な委員会活動であると評価する意見がありました。

・ダイバーシティ委員会の活動により、多様性を「知る」というステージがずい分と同友会内に浸透してきましたので、今後は、会員の多くが多様性を「経験する」ステージへ進化していくことが期待されます。次年度は、寺尾委員長から梶原委員長へバトンタッチとなる予定です。次年度も、新委員長の元での新しい展開に今からワクワクしています。

アンケートへのご回答ありがとうございました。

第5次ビジョンの検証結果（共同求人委員会）

・ビジョン委員会から共同求人委員会へ参加した方の意見として、「共同求人委員会に参加させてもらえて、本当に勉強になった。」という感謝の意見がありました。「実際に、ながさきしごとみらい博にも出店させていただき、今の学生や学校の考えやスタンスを実体験により感じる事ができた。特に、今の学生や学校は、インターンシップ制度のある企業に強く興味を持ってくれており、制度がない企業に対する関心は薄い傾向にあるということも、参加して初めて知ることができた。この傾向は、都会の学生たちだけではなく、県内の学生たちも同様であった。」「参加することで、多くの情報を手に入れることができるので、もっと多くの会員に出店して欲しい。情報収集目的で出店することもできる。出店企業のうち、同友会会員のシェアがもっと広がって欲しい。」といった意見もありました。そこで、今後、共同求人委員会において、インターンシップ制度自体についての勉強会や、業種毎インターンシップ制度の構築方法等についての勉強会の開催を実施してもらえれば、大変ありがたい旨の要望もありました。また、実際にこのイベントに参加して採用につながったケースを取りまとめて同友会内にフィードバックしてもらえれば、関心を持つ会員が増えるのではないかとという提案もありました。

・今年度は、コロナ禍の中でも、各大学との連携が加速した1年間であり、野方委員長を中心に委員会全体で精力的に活動された点を高く評価する意見が多数ありました。元々、対応すべきことが多い委員会ですが、ビジョン推進及び活動方針・計画の進捗程度としましては、委員会で提示されている自己評価よりも、もっと高い数値のはずであるという点は全員一致の意見でした。

・大学との連携が加速したので、今後は、高校との連携も継続して進んでいくことが期待できます。

・人を生かす4委員会を牽引する委員会でもあり、委員長が全力で頑張ることで

委員が後に続くということを体現した委員会活動でした。

・共同求人委員会における経験は、特に自社に持ち帰って活かせることが多いため、委員会の知識や経験を、より多く同友会全体に共有することができれば、共同求人委員会のファンが増えていき、活動がさらに活性化していくと感じました。皆の期待が大きく、同友会の中でも、中心的委員会であることを強く感じることが活躍でした。

アンケートへのご回答ありがとうございました。

第5次ビジョンの検証結果・抜粋（政策委員会）

・中小企業憲章の周知活動は、時間と労力をかけて地道に周知を進めていく必要のあるとても根気のいる活動になります。佐世保支部の例会では、5分程度の時間を確保して、中小企業憲章基本理念の唱和を実施して、理解の浸透に努めていただきました。唱和するポイントを毎回決めて、少しずつ着実に周知活動を実施されてきました。

・長崎市内では、新型コロナが流行する以前は、出島支部と浦上支部が支部を超えて協力して、準備委員会を立ち上げて、中小企業振興基本条例の制定に向けて活動していましたが、感染症流行により、なかなか思うように進めることが難しい状況の中でも、出島支部の安井政策委員長を中心に、徐々にアクションを起こしていただいています。支部を超えた連携が今後より強まっていくことが期待されます。

・アンケートにも記載がありましたように、諫早支部では、諫早市長の交代により、中小企業振興基本条例の立ち上げに向けて、市の部署組織再編成がなされており、コンサルタントを入れて、条例制定に向けた活動が既に加速化しています。そして、同友会、商工会議所等がその主体となって、振興会議を牽引していく制度づくりが進んでいます。

・欲を言えば、新型コロナの影響もあり、なかなか県委員会が開催できなかった点が次年度の課題と考えられました。時委員長の活動だけでなく、県委員会、支部委員会を巻き込んだ全体活動の活性化に今後も期待が高まります。

アンケートへのご回答ありがとうございました。

第5次ビジョンの検証結果・抜粋（情報広報委員会）

・新型コロナの影響を受けながらも、毎月委員会を開催して、活動を継続された点を高く評価する意見が、ビジョン委員会でも全会一致の意見でした。

・e.doyu へのアクセス状況（毎月60%前後）は、全国的にも相当高い数値であり、ビジョン到達に向けての日々の活動の賜物と思われます。また、プレスリリースセミナー開催も成功し、会全体に大きな影響を与えていただきました。これらの成果を踏まえ、ビジョン及び活動方針・計画のいずれも75%の達成度という高い自己評価をされており、充実した活動を展開されてきたことがよく分かります。客観的な評価としましては、自己評価75%をさらに超える達成度であったのではないかという意見も多数ありました。

・委員会運営の点は、年度途中から副委員長を選任されたほか、Googleドライブを活用して、委員会内の情報共有や意見交換を迅速に行われており、同友会の中でも先端の活動を行われています。

・諫早支部でも、支部の池田情報広報委員長を中心に、会員のエフエム諫早での「社長さんいらっしゃい」というラジオ番組を活用するなど、委員会内外の活動が積極的に行われていました。上野会員が他支部でも活躍されているほか、県の田浦情報広報委員長も諫早支部所属ということもあって、諫早支部が県内でも最先端の活動を推し進められてきました。今後も、県委員会と諫早支部の活動の輪が、県全体の活動へ浸透していくことが期待されます。

・また、次年度は、ホームページのリニューアルを検討中とのことでしたので、さらに魅力的な広報活動の展開が今から楽しみです。

アンケートへのご回答ありがとうございました。